

# ウイルスによる異常産等の発生に注意

家畜保健衛生所では、毎年、牛に異常産等を起こすウイルスの動向調査を実施しています。

令和2年度調査では、県北管内でウイルスの動きは確認されませんでした。が、**県内でイバラキウイルスと近縁のウイルスの動きが確認され、九州の複数地域でイバラキウイルス、牛流行熱ウイルスおよびピートンウイルス、一部地域でチュウザンウイルスの動きが確認されました。**

なお、**令和元年度には県北管内でピートンウイルスの関与を疑う異常産が2例発生**しています。掲載

今後、これらのウイルスによる異常産や熱性疾患等の発生が懸念されることから注意が必要です。

## ◎予防と対策

ウイルスを媒介するのはヌカカなどの吸血昆虫です



① **吸血昆虫が発生しにくい環境づくり**に努めましょう。

例) 畜舎周辺の草刈り、不要な水たまりを減らす など

② **牛異常産ワクチン**を接種しましょう。

吸血昆虫の活動が活発になる**夏前に接種を済ませ**ましょう。



### ワクチンの種類

- ・イバラキ病生ワクチン
- ・牛流行熱不活化ワクチン
- ・牛流行熱・イバラキ病混合不活化ワクチン
- ・牛異常産3種混合ワクチン(アカバネ、アイノ、チュウザン)
- ・牛異常産4種混合ワクチン(アカバネ、アイノ、チュウザン、ピートン)

# イバラキウイルス



- ・死流産
- ・40℃前後の発熱、食欲不振、流涎
- ・重症例では、鼻及び口腔粘膜の充血、びらん、潰瘍
- ・嚥下障害(飲水の逆流など)

【写真】 嚥下障害に伴う飲水の逆流(出典:農研機構 動物衛生研究部門)

# ピートンウイルス



- ・死流産
- ・奇形子牛の娩出 など

【写真】 四肢の異常と脊柱彎曲を示す流産胎子(病性鑑定)

# チュウザンウイルス



- ・異常産牛の娩出
- 虚弱、自力哺乳不能および起立不能等の運動障害、間欠的なてんかん様発作、後弓反張等の神経症状、盲目 など

【写真】 後弓反張を呈す子牛(出典:農研機構 動物衛生研究部門)

# 牛流行熱ウイルス

- ・突然の高熱(41~42℃)、呼吸数増加、流涙、流涎、鼻汁
- ・脚の腫れ、痛みによる歩行困難、筋肉の振戦

上記のような症状がみられたら  
獣医師または家畜保健衛生所に連絡を!

問合せ: 長崎県県北家畜保健衛生所 TEL 0956(48)3831  
〒858-0911 佐世保市竹辺町92 FAX 0956(48)3832